

組織的な大学院教育改革推進プログラム事後評価結果

機関名	長崎大学	整理番号	1005
主たる研究科・専攻等名	医歯薬学総合研究科熱帯医学専攻		
教育プログラム名	国際連携による熱帯感染症専門医の養成		
取組実施代表者	中込治		

組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会における評価

【総合評価】
☒ 目的は十分に達成された ☐ 目的はほぼ達成された ☐ 目的はある程度達成された ☐ 目的はあまり達成されていない
〔実施（達成）状況に関するコメント〕 「熱帯医学分野に関する高度の専門的知識能力を修得させるとともに、専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養し、国際性を持つ熱帯医学の高度専門職業人の育成」という教育プログラムの目標に向け、テレビ会議システムを活用した症例報告を含む「海外教育人材による講義」及び海外協力病院に長期間滞在して行う「海外教育病院での臨床研修・研究」などの計画が着実に実施され、取組を実施する前の課題であった「熱帯病の臨床症例検討の不足」「熱帯病現場経験の不足」が改善されるなど、大学院教育の質の向上に大きく貢献している。特に熱帯医学の現場である海外での臨床研修は学生の研究意欲の向上をもたらし、修士論文完成者の割合の増加、半数以上が博士課程へ進学するなどの成果が得られている。プログラムの実施状況や成果が詳細に検証されており、熱帯病症例の講義などの遠隔講義のオンライン教材化、海外協力病院との継続的な連携協力など更に改善・充実を図ることにより、今後の発展が期待される。支援期間終了後の実施計画については、グローバル COE とも連携して熱帯医学の研究、熱帯医学・感染症学研究者の養成システムを全学的に支援する計画としている。情報提供についてはホームページが充実しており、教育プログラムの成果が判りやすく公表されている。また、学会発表の他、若手医師向けの新聞等への寄稿など、多様な手法により広く社会へ公表されている。比較的長期の海外研修・研究を組みこんだ取組は、国際的な課題に取り組む医学系の大学院教育に応用可能であり、波及効果が期待される。大学による支援期間終了後の自主的・恒常的な展開については、教員の配置、海外協力機関との連携事業の継続などの十分な措置が示されている。
（優れた点） わが国の大学において熱帯医学の高度の専門的知識能力を習得させるための大学院教育プログラムとして、海外提携校との密接な連携により、遠隔講義、海外研修・研究、症例報告、論文指導の一連のカリキュラムによる教育を実施し、成果を上げた。熱帯医学専門家養成の優れた教育モデルとして高く評価できる。 （改善を要する点） テレビ会議システム利用の教育内容の更なる工夫、公衆衛生学分野と連携した講義、研究指導の充実について、更なる具体化に向けた検討が望まれる。